

広報誌

地域とともに歩むしらゆり会

しらゆり

shirayuri

第 38 号

2022.8 August





社会福祉法人
しらゆり会

広報誌

地域とともに歩むしらゆり会

しらゆり

shirayuri
第 38 号
2022.8 August

contents

2 理事長挨拶

しらゆり第38号 発刊によせて

3 統括事務局・泉の園 新築移転について

7 法人基本方針 令和4年度運営方針 しらゆり会役員等名簿

8 新施設長就任のご挨拶

9 永年勤続者表彰 新規採用職員紹介

10 令和3年度寄付・寄贈 施設整備事業 苦情処理状況

11 令和3年度決算状況

12 施設の活動報告

- 救護施設 泉の園
- 障がい者支援施設 希望の園
- 相談支援事業所 ねくすと
- 共同生活援助事業 互助の館
- 障害福祉サービス事業 ワークセンター島根
- 障がい者支援施設 光洋の里
- 生活介護事業 さざなみ
- 軽費老人ホーム ケアハウス 夢楽の郷
- 特別養護老人ホーム 詔光の里
- 老人デイサービス事業 きらめき
- 老人・障がい者ホームヘルプサービス事業 ねぎらい
- 訪問看護ステーション 暖心
- 居宅介護支援事業所 ナイス
- 児童福祉施設 しらゆり保育園
- 児童福祉施設 しらゆり第2保育園
- 児童福祉施設 しらゆり第3保育園
- 児童福祉施設 しらゆり千鳥保育園



しらゆり第38号

発刊によせて

社会福祉法人 しらゆり会

理事長

国頭正治

2022年もコロナ自粛から解放されることもなく、我慢のスタートとなりました。

コロナ感染抑制のため、福祉施設では引き続き利用者の外出やご親族様の面会等に影を落として続けています。地域との関わりも制限を受けて3年目。利用者の皆様の生活環境も大きく変わりました。保育所においても、児童の家庭内感染による感染拡大の傾向に影響される案件が多く発生いたしました。非日常的なことが日常となり、ウィズコロナ生活に慣れてしまう昨今。何をもちつて安全、安心な環境とするか判断が難しくなってきました。

そして、2025年には団塊の世代が75歳以上となり、医療、介護費が急増することは数年前から懸念されていることですが、福祉現場の環境は遅々として改善が順調とはいきません。介護分野では深刻な担い手の不足に対し、高齢者人口がピークを迎える2040

年度の危機感です。出生率の低下により労働者人口の減少はより顕著になってきます。

福祉分野だけの担い手不足の問題ではありません。先行きの問題解消に本当に解決策が見つかるのでしょうか。

3年ごとに見直される介護保険制度は、24年度改定に向け今年度より検討される案件が少しずつ始めてきました。担い手不足のため、介護職員の配置基準の緩和を検討する方針が示されましたが、現状ではかなり難しいと思われる。見守りセンサーの導入、介護ロボットによる職員負担のさらなる軽減。ICTの活用などを挙げていますが、福祉事業所においては足枷となる制限が多すぎ、簡単に解決できるものではありません。またすでに、サービス利用時原則1割負担から、所得により2割、3割負担へと改正されています。負担増を敬遠して、福祉サービス

の利用制限を考える利用者様も増えていくのではないかと思います。昨今の世界情勢の不安定な状態、およびコロナ過での物流の停滞などにより供給不足が起き、光熱費や消費財等のコスト増による商品等の値上げが続いております。民間企業の皆様はコスト増により価格転嫁をやむを得なく行えますが、福祉分野の報酬改定は3年ごとであり、費用対価に見合う改定が行われるとは限りません。大幅な改定は利用者の皆様のさらなる負担増につながります。

早く落ち着いた環境になることを望み、皆様方の福祉事業所利用のより良い価値を生み出せるよう、私も努力してまいりたいと思います。そのためにも、今後とも地域と共に歩むしらゆり会にご支援賜りますようお願い申し上げます。

新事務所への移転について



正面外観

今まで統括事務局は、「希望の園」や「詔光の里」の中に併設しておりましたが、今回初めて単独の事務所として、令和三年十二月に移転しました。

しらゆり会も開設以来五十五年以上経過し、施設の数も増え、その分事務量もかなり増えており、手狭になっておりました。そこで、「泉の園」移転に伴い、隣接する形で統括事務局の移転を行いました。

これを機に、職員一同気持ちも新たに、皆様の信頼にお応えできるよう努力してまいりたいと思っております。

今後の運営について

新型コロナウイルスの感染拡大や、自然災害等により、予期せぬ事態が想定されます。

人材の確保については、非常に厳しい状況となっており、職員の確保は喫緊の課題であります。

老朽化が進んでいる施設もあり、今後建て替え等が必要となります。

今後多難な時代であると思われませんが、一歩一歩確実に歩みを進めていこうと思っております。



北東面全景



令和3年11月末、泉の園の 新たな園舎が完成いたしました。

東西に伸びる山陰道を前景に、約5千平米に及ぶ敷地に完成した新園舎は、深い緑を基調とし重厚感にあふれ、福祉施設を感じさせないイメージがあります。そして外観だけではなく整備も設備も、まさに新時代に沿う施設となっております。

47年近く入所者の方や職員的生活を見守ってきた旧園舎は、老朽化に重ね土砂災害警戒区域に指定されていることから、新築移転へと進み5年間の準備建設期間を経て、令和3年11月25日竣工落成、翌月12月8日には全ての移転が完了し、新たな泉の園の生活がスタートしています。



共同型の居室から全室個室化へ…

プライベートが 確保された生活

人は、プライベートが確保され、プライベートな空間が守られ保障することで、心にゆとりが生じ、他者と交流する意欲が生れるといえます。

殆どの入所者の方が個室を喜ばれ、好みの物や馴染みの品でしつらえたり、職員の助けを借りながら、個々に合った生活しやすいスタイルに工夫をされています。何よりも一人の時間を楽しめ、夜間は良眠することが出来ておられます。

生活全体でも、苦情やトラブルが激減しています。また日中活動への参加にも変化がみられ、以前姿が無かった方の参加が見られたり、日中活動の支援体制を大きく変えたこともありますが、参加率も上昇してきております。



正面側全景

新園舎の特性を 活かした生活支援へ

管内は電子ロックキーが各所にあります。施設周辺の環境を鑑み、入所者の安全確保を第一とし、感染症対策の徹底化や職員の事務業務の効率化が図れるようになっていきます。

実際に入所者の職員室への出入りが難しくなっていますが、職員はケアと机上での業務にしっかりとメリハリをつけることが出来、ゆとりを持った気持ちで入所者個々のケアをすることが出来ていると考えます。

今後は新園舎の特性を活かし質の高い支援を目指していかなければなりません。

この新園舎が、47年間という長きに渡る旧園舎の歴史を礎に、新たな泉の園の歴史を旧園舎以上に築きあげてくれることと思います。

この度の移転新築を、より高い発展への契機と捉え、入所者の方が生活しやすく、職員が働きやすい環境づくりに努めてまいります。



1階機械浴室



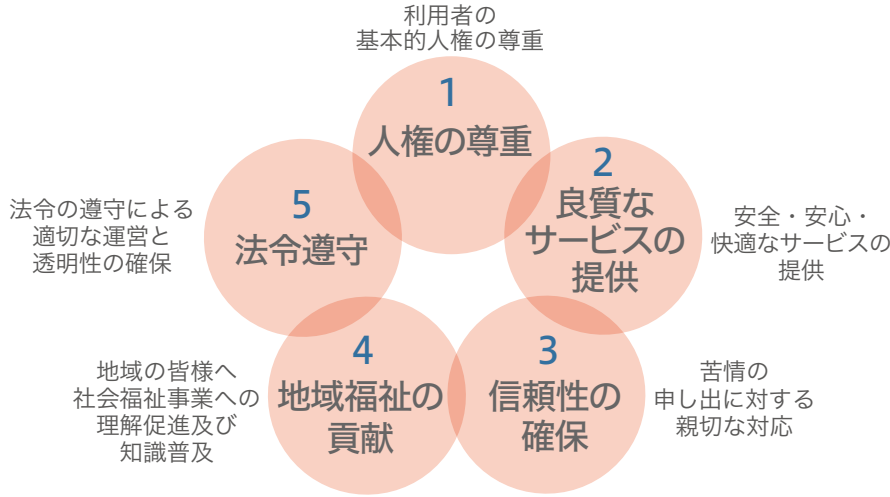
1階手洗い・廊下



1階食堂

法人の基本方針

社会福祉法人しらゆり会は、利用者の皆様へ、そして地域福祉充実のため次の5つの目標を掲げ、しらゆり会の施設やサービスを利用して良かったと言ってもらえるように、役職員一丸となって利用者の皆様へのサービス提供に努めます。



重点目標

一向に収束が見通せない新型コロナウイルスの感染拡大、毎年のように発生する自然災害など、私たちは日々、未曾有の脅威にさらされている。法人としては、困難な事態に備えて、持続可能な経営戦略を組み立てておくことが必須となっている。

どのような状況にあっても、しらゆり会が地域におけるセーフティネットとしての役割を担い続けるために、これまでの社会福祉法人をめぐる動向を振り返り、存在意義を高め、必要とされる法人運営を目指していく。

一. ウイズコロナ時代の事業運営についての検討

新型コロナウイルスの感染収束に向けた社会の動向について注視しながら、今後も感染リスクに応じた柔軟な感染対策やサービス提供の工夫、人材確保等の課題に継続して取り組み、「新しい生活様式」に応じた事業運営のあり方を模索していく。

二. 福祉人材の確保

島根・鳥取両県においても福祉サービスのニーズの増大、高度化、複雑化がいつそう進んでいるが、一方で若年労働者の減少が進み、人材難の状況は続いている。当法人においても、社会福祉従事者を相当数確保していくことが課題であり、魅力ある職場づくりを進めていくとともに法人のイメージの向上を図り、積極的な人材確保に努めていく。

三. 各事業における経営状態の維持・改善

福祉業界では、社会保障費の抑制による経営悪化や人材人手不足、同業者同士の競争激化などにより、多くの事業所が厳しい経営状態にある。当法人においても、事業の安定的・継続的な経営を図っていくため、しっかりと現状分析し将来を見据えた着実な取り組みを進めていく必要がある。現場の意識改革やサービスの質向上等を進めるため、本部機能の強化を図っていく。

しらゆり会役員等名簿

(任期)
令和3年定時評議員会終結の時から令和5年定時評議員会終結の時まで

職	氏名	現在の職業及び公職
理事	国頭 正治	理事長
理事	国頭 正久	統括事務局事務局長
理事	小林 良二	しらゆり第3保育園施設長
理事	宮廻 洋子	社会保険労務士 (元本会施設長)
理事	若槻 明彦	栄徳商事(株)代表取締役社長
理事	河内 大輔	松江市議会議員 (株)Trex取締役
理事	松田 秀敬	(元本会施設長)
理事	廣瀬 芳徳	(元栄徳商事(株)代表取締役)
監事	出雲あかり	松江市障がい者基幹相談支援センター「絆」支援相談員

(任期)
令和3年定時評議員会終結の時から令和7年定時評議員会終結の時まで

職	氏名	現在の職業及び公職
評議員	三島 進	松江市議会議員 (有)三島運輸役員
評議員	瀬崎 淳一	(有)ベリーシヨップ 代表取締役専務
評議員	山本 寿子	(元)松徳学院高校非常勤講師
評議員	上田 恭己	松江栄養調理製菓専門学校 校長
評議員	石田 正美	希望の園保護者会会長
評議員	花田 範久	(元)山陰中央新報社論説委員
評議員	中島 修	(元)社会福祉事業団職員
評議員	竹田 純子	(元)本会施設長
評議員	小林 洋一	(元)株島根銀行 総合企画グループ審議役

希望の園
施設長 就任にあたり



希望の園
施設長
庄司 彰

4月より、希望の園施設長に就任致しました庄司と申します。

3年前までは想像もしていなかった新型コロナウイルス感染症のまん延やロシアのウクライナ侵攻、日用品の高騰など胸を痛む報道や我慢が多い生活が続いています。

福祉を取り巻く環境も変化しており、その時々的情勢に合わせて、利用されている皆様に必要な事、望まれている事を常に考えながら、関係機関と連携を密に取り、利用者の皆様が希望を持って生活出来、家族の皆様から望まれる施設となる様に職員と共に目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

しらゆり保育園
施設長 就任にあたり



しらゆり保育園
施設長
野口 あき子

しらゆり保育園の施設長に就任致しました野口と申します。

しらゆり会に新規採用して頂き、理事長先生を始め、諸園長先生方、良き同僚や後輩に支えられ、この春35年目を迎えました。

しらゆり保育園は17年ぶりです。地域の皆さんは温かく、変わらない近隣の歴史の産物の懐かしい匂いに安堵しました。同時に、諸先輩方の知恵と努力とたくさんのおいで築かれたしらゆり保育園の歴史を守っていかねばと使命感でいっぱいになりました。

施設長として、子ども、保護者、職員、地域の皆さんの、瞳に映る瞬間を大切に繋がり合い、施設長の重責を果たせるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

夢楽の郷
施設長 就任にあたり



夢楽の郷
施設長
田澤 直実

この度、夢楽の郷施設長に就任致しました田澤直実と申します。

今年30周年を迎えた夢楽の郷に、昨年4月に光洋の里より異動致しました。初めての高齢者施設での勤務に自らの未熟さを痛感する日々でしたが、信頼できる心強いスタッフとご入居者の皆様の温かく優しいお言葉に支えられて、一歩ずつ成長過程にあります。また法人内の他事業所のスタッフと同じ目標に向き合えることも嬉しく、新しい出会いに感謝の日々です。

夢楽の郷の役割は、地域

の高齢者の皆様が住み慣れた場所で自分らしい暮らしを継続される拠点となることです。施設の提供する柔軟な生活支援体制で、行政や医療・福祉サービスと連携をとり、求められる期待にこたえて実現していけるように尽力する所存です。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

施設名	職名	氏名
希望の園	主任	津森 俊輔
泉の園	介護職員	上田 繁範
泉の園	調理員	杉谷伊都美
光洋の里	支援員	小林ゆかり
光洋の里	支援員	小玉 学
夢楽の郷	調理員	矢野由美子
しらゆり第3保育園	保育士	増田 瑞穂
しらゆり第3保育園	保育士	上野 晃治
しらゆり第3保育園	保育士	家塚 香菜
事務局	主事	古家 早織

施設名	職名	氏名
泉の園	主任	山本 哲史
ねくすと	主任	小川 剛
さざなみ	主任	大石 和育
事務局	主事	大道 泉


永年勤続者表彰

今年度は勤続20年の表彰者は4名、10年の表彰者は10名となりました。



詔光の里 看護師
涌嶋由紀子
採用年月日 令和4年4月1日

入所者の方々の個別性を理解し、安心、安全に生活できるように関わらせて頂きたいと思えます。宜しくお願い致します。



詔光の里 介護職員
遠藤祐子
採用年月日 令和3年8月1日

この度、正規職員として勤めさせていただく事となりました。いつも笑顔をやさず利用者様に寄り添った支援が出来る様、初心を忘れず利用者様と共に一日を大切に過ごしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

新規採用職員紹介




希望の園 支援員
松田 堯
採用年月日 令和4年4月1日

利用者様と共に学び成長していきたいと思っております。微力ではございますが、粉骨砕身の思いで働きますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。




希望の園 事務員
天倉美雪
採用年月日 令和4年4月1日

今年度より希望の園で事務員として勤務しております。未熟ではありますが、少しでも皆様のお力になれるよう日々精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



詔光の里 看護師
高津美雲
採用年月日 令和4年1月1日

利用者様が安全に安心して生活できるよう、関わらせて頂きたいと思えます。よろしくお願い致します。



光洋の里 調理員
勝部 紘史
採用年月日 令和3年9月1日

利用者様の健康と、食べる楽しみを考えながら、日々頑張ります。よろしくお願い致します。



光洋の里 看護師
杉原 英子
採用年月日 令和4年2月1日

2月から光洋の里で勤務させて頂いております。皆さんと楽しく過ごしていきたいと思えます。よろしくお願い致します。



光洋の里 支援員
橘 小春
採用年月日 令和4年4月1日

今年度より、光洋の里で働かせて頂く事になりました。利用者の方が安心して、楽しく過ごしていただけるよう、笑顔を大切に頑張りたいです。よろしくお願い致します。

令和3年度も多くの方々から善意のご寄付をいただきました。

寄付者	施設	寄付物品
(一財)中国地方郵便局長協会	光洋の里	寄付物品
森 義郎	光洋の里	寄付金
管田 英武	詔光の里	寄付金
荒川 剛	詔光の里	寄付金
詔光の里親族会	詔光の里	寄付物品
(公社)24時間テレビチャリティー委員会	詔光の里	寄付物品
しらゆり第2保育園保護者会	しらゆり第2保育園	寄付物品
しらゆり第3保育園保護者会	しらゆり第3保育園	寄付物品
しらゆり保育園保護者会	しらゆり保育園	寄付物品
しらゆり千鳥保育園保護者会	しらゆり千鳥保育園	寄付物品

令和3年度 施設整備事業

1.修繕関係	
下水道切替工事	(光洋の里)
A棟廊下雨漏り修繕工事	(光洋の里)
作業棟外壁シール他改修工事	(希望の園)
居住棟廊下腰壁改修工事	(希望の園)
法面復旧工事(仮復旧、伐採・測量)	(ワークセンター島根)
保育室エアコン取替工事	(しらゆり第2保育園)
2.備品関係	
居室エアコン(3)(更新)	(光洋の里)
テイルーム換気システム	(光洋の里)
昇降式介護浴槽(更新)	(さざなみ)
クリーニング蒸気ボイラー(2)(更新)	(希望の園)
プール用コンクリートテラス クッションコーティング	(しらゆり保育園)
園庭総合遊具(更新)	(しらゆり第3保育園)
スチームコンベクションオープン(更新)	(しらゆり千鳥保育園)
電解水生成装置(更新)	(しらゆり千鳥保育園)
3.移転改築	
移転改築工事	(泉の園)

苦情の状況 (令和3年度)

令和3年度の苦情受付総数7件でした。具体的には、職員の対応時の印象の悪さ、親族に対する説明不足等の苦情が3件。また、サービス提供に関する苦情が2件、利用者間でのトラブルに関する苦情が2件でした。

これらのお申し出頂いた苦情に対し、職員間での協議を重ね、ご本人様やご親族の皆様への説明を丁寧に行うことにより解決して参りました。

今後もお申し出頂いた苦情を真摯に受け止め、より良いサービスの提供が出来るよう精進して参ります。

施設の活動報告

コロナ禍の中でも工夫をこらして様々な活動を行いました。
各施設からの声をお届けします。

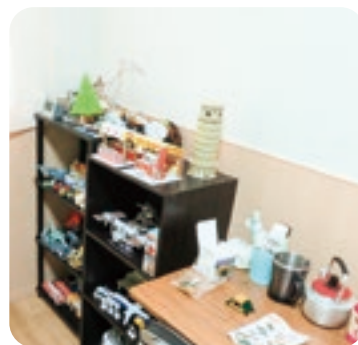


クラブ光景
4クラブのひとつ 華道

令和3年11月、園舎完成から竣工式を経て、内覧会を行い、物品機材の搬入や設備の取り扱い説明、そして利用者様の引越しの流れなのですが、完成から引越しの期間が短い為、令和3年度事業である為に、

新園舎へ引越し

泉の園



個室の光景
ペーパークラフトの大作たち

新園舎での生活開始の時期と同時進行で旧園舎引き上げも進めなければならず、綿密な計画をたてる事になりました。

90名の利用者様の引越しは、職員が2度居室の下見を行ない、利用者様と相談しながら配置や準備品の打ち合わせをしました。焦りや即答を苦手とする方が多い中、ゆっくり時間をかける打ち合わせに心掛けました。変化に戸惑う利用者様に、期待や喜びの気持ちを持って頂くよう努めました。

引越し当日、朝食が旧園舎で昼食から新園舎と新旧2ヶ所の厨房で対応しました。

夕方からの自由時間は各部屋と集会・多目的室利用、洗濯室、自販機等も可動する需要がありました。

予定以上に順調に進み夕食までに



集会室でのイベント光景
DAMを使ったビンゴゲーム

は各部屋のベッドメーカーが終了し、新園舎での生活がスタートしました。迷子になる方もありましたが、それぞれが笑顔で探しておられる姿を見て安堵感がありました。

90名の利用者様 機材や備品等の引越し、旧園舎の片づけと想像を絶するハードで内容の濃い1週間でしたが、新園舎の近隣に運送会社が出たが、2件あり、早い段階で打合せが出来、また旧園舎の片づけは、過去に勤務していた男性職員2名が2日間手伝いに来てくれました。

感染状況も落ち着いており、好天に恵まれ、全職員が協力して予定通りに無事終了する事が出来ました。

障がい者支援施設 希望の園

コロナ禍での活動 (生活介護)

コロナ禍も3年目となりますが、生活の中の小さな楽しみを見つながら皆さんと共に楽しく過ごしてきました。自由な外出が困難であっても、花見外出やドライブ外出をしたり、園内では職員と一緒に作った畑のさつまいもでパン作りを行い、皆さんとおいしく頂きました。これからも園内外に関わらず、元気に身体を動かし、おいしいものを食べながら小さな幸せ作りを続けていきます。



愛情込めて自分で作ったパンの味は最高です!!

クリーニング部の 作業風景を紹介します

これからは夏本番。冷風機がついていても大型洗濯機や乾燥機の熱で作業場はとても暑いですが、しかし、暑さを吹き飛ばす皆のパワーで、今日も頑張っています。



洗濯したシーツをシワ伸ばしと置く機械に流します。



機械から出てきたシーツの検品と仕分けをします。



ユニフォームなどはアイロンがけを行います。



各種枕カバーの仕分けをします。



洗濯したシーツの表替えしと仕分けをします。

パン工房 ナチュラル

希望の園 パン工房 ナチュラルでは、コロナ禍で制限のある中、感染対策を図って、遠足に行っていました。

いつもお客様のために作っているパンを自分のために作るという体験をしました。サンドイッチを作り、からあげ、たまご、ジャムなど各々好きなものを詰めて出発。

堀川遊覧船でゆったりとした時間を満喫して城床ふるさと公園では、自分の作ったサンドイッチを見せ合いながら食べた後、グラウンドゴルフをしました。

とても楽しい時間を同じ現場の仲間と共有することができました。



相談支援事業所 ねくすと

「大事にしたいこと」

平成26年に「ねくすと」が開所してから8年が経過しました。この間、相談員の体制も変化がありながら、現在は3人で対応しています。今年度は、開所当初からの大黒柱が退職され、寂しいスタートとなりましたが、寂しさに浸る間もなく日々の業務に追われている毎日です。しかし、忙しい中でも開所当初から「ねくすと」が大切にしている事は、これからも引き継いでいかなければならないと感じています。

松江市では、今年度から「松江市障がい者基幹相談支援センター絆」が設置されました。これまでは障がいのある方の総合相談窓口として「まつえ障がい者サポートステーション絆」が松江市の相談支援を担ってきていま

したが、今年度からは相談体制の充実・地域で自分らしく暮らしていく為の体制づくりを一層進めていく為の役割も加わり、基幹相談支援センターの今後が期待されています。

コロナの状況は依然変わらず、未だ終息が見えない状況です。コロナ禍で制限が続く生活の中、知らず知らずのうちにストレスが溜まり、「生きづらさ」を感じている相談者の方もおられます。口に出して自ら発信できる人はいいのですが、表出するのが難しい人もおられます。そんな時は、周りの人が変化に気づく事が大事だと思います。私たちが関わるケースの中でも、「もう少し早く分かってあげられれば」と悔やむ事もあります。福祉に関わる者にとって「本人を知る」という事は当たり前の事ですが、とても大事な事であり難しい事であり、長い月日が必要だと感じています。

この世界に生まれ、誰もが主人公です。「ねくすと」は相談者である「主人公」を陰ながら支えつつ、その人らしい人生が送れるよう応援していく為に、これからも日々力を合わせ、試行錯誤していかうと思っています。



秋の日帰り旅行

鮮やかな紅葉の頃、11月6日「秋の日帰り旅行」を計画しました。県内で近場ですが、三瓶山方面で利用者様と職員合わせて27名の参加となりました。

まず、サヒメル自然館にて、ポケモン展示場を観て回り、三瓶山周辺の自然環境や歴史を学びました。昼食は、海の霧食堂きつ川で、ジンギスカン。皆で堪能し、お腹一杯になり大変好評でした。最後にサンドミュージアムに立ち寄り、サンドアート体験をしました。砂を使用してのアートは、皆さんにとって初めての体験でした。1年時計の見学をして、全員で記念撮影し、お土産を購入しました。普段、目にしないような商品に選ぶ楽しみを感じていただけたようです。予定の時間より少し遅れての帰寮ではありますが、みなさん元気で無事に日帰り旅行を行うことが出来ました。日常から少し離れた時間を過ごすし、



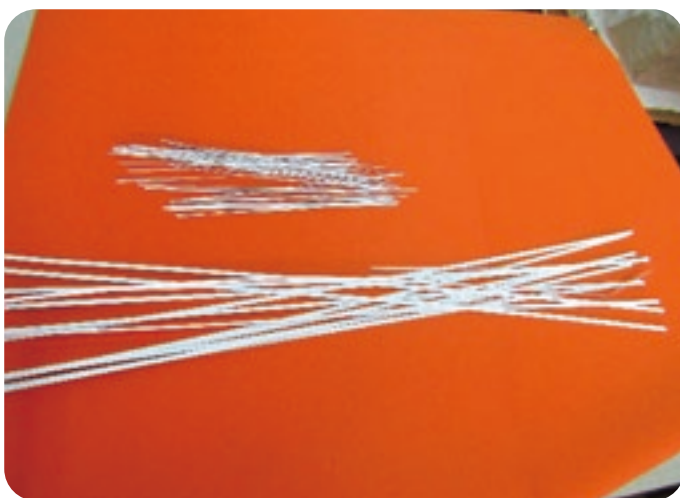
皆さんの笑顔をたくさん見れた素敵な日帰り旅行でした。

今後も、利用者様同士や職員と親睦を図りながら、こうしたリレーション等の有意義な時間の提供が出来ればと思っております。





BOXパレットに入れて業者へ



廃材と言っても工作に使いそうです

就労継続支援A型事業 ワークセンター 島根

ロスをなくす取り組み

ワークセンター島根は、就労継続支援A型の事業所になり、障がいのある方が日々作業

をされています。ここで生産されている製品は、事務製品になります。その中でもファイル関係、バインダー関係がおもな生産品目となりますが、色が違ったり大きさも違ったりして種類は多種になります。それに使う資材はそれ以上に多くの種類になり、一つ一つ間違わないよう資材の準備をする事が重要になります。品質の管理の上からも資材管理は重要な事となります。

その資材ですが、製品一つ一つに間違わないように取り付ける事が重要ですが、また、製品を作る際も不良が出ないように作業手順を

守り組み立てていく事も重要になります。資材の準備は基本2者で確認作業を行います。2人がいないと資材が出せない事となりますが後々資材が間違っていたら多くの損失が出る事になります。資材もですが、時間もロス時間となります。それを防ぐために2者確認が行われています。不良が出ない作業手順ですが、定時の製品状況の確認を行います。検査項目に従い製品の状況をチェックします。このことにより、早期に不良を見つけ出す事が出来ます。

また、ワークセンターの製品は紙製品を多く取り扱います。資材の断裁から始まる資材があります。ファイルなどの製品の中には原紙で材料が入る物があります。それを断裁機を使い規程の大きさに切りますが、切れ端が出ます。切れ端はリサイクル業者に引き取ってもらい廃材の有効活用をしています。

このように、まず廃材はリサイクルに、生産過程において基本である不良を無くすことによりそこから出る廃材を無くすことが出来ます。それを行うためには決められたことを守り作業手順により生産をする事で無駄のない効率的な生産活動が出来、製品の品質維持に繋がっています。今後も利用者、職員と共に品質の良い製品作りを心掛けたいと思います。

障がい者支援施設

光洋の里

医務SDGS目標

働きがいも経済成長も

「Stand Out Fit In

はみだして、はじめ」

一見、矛盾しているように聞こえますが「自分らしさを怖がらない」という意味です。一人一人の個性や背景、知識やスキルを認め合い、ベテラン、新人、経験問わず意見を言いやすい雰囲気を中心掛けています。看護師全員で改善点を自由に提案し合う事で、長年の皮膚症状が劇的に改善した利用者さんの例等もあり、一人一人の意見は改革になっていきます。「数」はプラスにもマイナスにも「力」になります。「個人」を認め合う事が出来ることで、統一した看護に繋がり信頼関係も深まるかと考えています。利用者さんの症状が改善する事も嬉しい事ですが、風通しの良い職場にしていきたいと話し合っている時の私達は素敵な笑顔です。「Stand Out Fit

In」はみ出すだけではなく、一人一人の魅力を最大限に出す。その上での統一した看護を目指すというメッセージです。

また早期離職予防として、直ぐに業務に取り掛かれるようなマニュアル作りを行っています。

業務に追われる事もありますが、スッキリとした気持ちで仕事ができるように、感染対策の消毒も行いながら、空き時間に医務室の断捨離を行っています。物品も見直し無駄をなくし本当に必要なものを相談しながら購入しています。

コロナ禍で研修会はオンラインのみの状況。勤務時間も参加が難しい事もあります。毎月一人ずつ資料を作成し（文献のコピーでも可）勉強会を行い、知識の共有、発表の機会を作り職員全員がやりがいを持つ事を目指しています。

利用者さん、職員と共に健康作りの一環として呼吸を大きくし、血行促進、肩こり腰痛予防や美容にも効果があり、誰でも馴染みの深いラジオ体操を行いたいと考えています。

PS：光洋の里では自然愛好家が集まり、心身の健康活動として月に1回のペースで安全に登山をしてリフレッシュしています。興味のある方は気軽にお声掛けください。お待ちしております！



生活介護事業 さざなみ

SDGs x さざなみ

「誰一人取り残さない」をスローガンに2030年までに全世界で達成を目指すSDGs（持続可能な開発目標）。この言葉は様々な報道から、最近よく耳にしています。が、あまり内容は分かっていないというのが本音でしょうか。さざなみでは、この機会に外務省や厚生労働省のHPで、内容を色々と調べ、示されている17テーマのすべてが私たちの生活全般に繋がる内容であることが分かりました。特に、福祉関連の内容では、目指す社会は「ともに生きる豊かな地域社会」の創造ということでした。この内容を見ているうちに、日々、さざなみで取り組んでいる支援そのものが、SDGs的なことであることが分かりました。そして、さざなみでは、数あるレクリエーション活動のなかに、ペットボトルを使用したキャップパズルやペットボトルの中に色々な物を入れて、揺らして音を楽

しむことを行っています。この人気のエコなレクリエーション活動もSDGsの一環と思うと嬉しくなります。

これからも、ご利用者様と支援を提供している職員の双方が共に豊かになれるよう取り組みを継続したいと思っています。

SDGs x 素敵な青空外出

春爛漫の4月上旬に支援員皆で企画した、感染症対策をばっちりとした外出行事を行いました。さざなみ近所の公園を数か所巡り、満開の桜を愛でることができました。雲一つない抜けるような青空のもと、ほんとうに素晴らしいときをみんなと一緒に過ごせました。そして、みんなで輪になって全身をめいっぱい使ってバランスボールサッカーを楽しみました。気まぐれなボールの動きが面白くて、みんなの笑顔が輝いていました。

まだまだ「Withコロナ」は続くかもしれないませんが、さざなみは、みんなで作ることができるこの幅をこれからもSDGsの視点をもとに広げて行きたいと思っています。



なにの形になるのかな



すごい！ 高く積めたよ



殻が入ったきれいな音色です



きれいな桜並木に心が洗われます



バランスサッカーで盛り上がりました



たのしい外出行事でした

経費老人ホームケアハウス 夢楽の郷

心に寄り添う 〜喫茶会を通して

夢楽の郷では年に5回の喫茶会を実施しています。私たち厨房職員が、その季節に合ったお菓子と飲み物を考え手作りで提供し、入居者の皆様の親睦を深めていただくために企画しています。一昨年からコロナ禍においては入居者の皆様に少しでも息抜きや楽しみになればと思い、改めて貴重な時間として実施させていただいています。

今回の5月の新緑喫茶会のメニューは、ケーキ&コーヒースセット・柏餅&抹茶セット・手作りの飲み物（アイスジュリーモカ・いちごミルク）を提供させていただきました。本来はお菓子も手作りで提供するのですが、今回は市販のお菓子を提供することにしました。コロナウイルス感染症予防のため、入居者様には不要不急の外出を控えて頂いている

ことから、外でお茶を楽しむ機会が減っています。そこで、人気パティシエのケーキや老舗和菓子店の柏餅で喫茶会の雰囲気味わっていただきたいと考えたからです。

また最近ニュースなどで耳にすることが増えた「SDGs」簡単に言うと「世界をより良くするための目標」です。その取り組みの中に、働きがいのある人間らしい仕事が含まれています。手作りのものを食べて頂きたい思いから何度も試行錯誤したメニューを提供することもあれば、今回のように喫茶店の雰囲気を提供するなど、その時の入居者様の状況を考え心に寄り添うことで皆様に喜んでいただけることが、厨房職員の働きがいに繋がります。

まだまだコロナウイルス感染症は収まりませんが、今年で30周年を迎えた夢楽の郷は、Withコロナにおいても入居者様のニーズをくみ取り、充実した時間を共有できるように時代に合わせて工夫していきたいと思えます。



柏餅&抹茶セット



ケーキ&コーヒースセット



いつもの席で、柏餅&抹茶セットをご一緒に…



厨房職員 特製 いちごミルクをいただいています♡

特別養護老人ホーム 詔光の里

コロナ禍における サークル活動

詔光の里の『サークル活動』は、以前は外部の講師を招き書道、紙芝居、歌の広場、俳句、生け花を実施してきました。

しかし、新型コロナウイルスが猛威を振るい世界的に流行し始め、徐々に私たちの生活も脅かされるようになっていきました。施設でも面会制限や外出が中止となり、外部の方との接触も最小限に抑えなくてはならない状況が続く、当然のことながら施設でのサークル活動も中止となってしまいました。ご利用者の皆様にとって外部の方との交流は、何気ない日常生活のなかにあつて特別な時間となります。ボランティアの方をはじめとして、何よりご家族様との交流が図れない状況下においては、前向きな気持ちで生活していくこととするエネルギーが充填されにくい環境で

あつたと思われず。

そこで、コロナ禍において私たちが出来ることは何か？ご利用者の皆様に楽しい時間を過ごして頂くにはどうしたら良いか？感染症対策をしっかりと行いながら、短時間で実施出来ないものか？と検討を重ねました。そして、昨年度よりサークル活動は職員が考え、職員が講師となり実施することとなりました。限られた職員数の中で、時にコロナ関連で出勤できない職員もおり柔軟な対応が求められましたが、ご利用者様の喜ばれる姿や真剣に取り組まれる姿を見ることは、私達職員にとっても喜びであり、そして何より楽しい時間でしたので可能な限り実施しました。

人は人と交流することで笑顔が生まれ、笑う事でストレスが緩和し、リラックスできる効果に繋がります。ご利用者様の脳の活性化や身体機能の維持向上、QOL向上という観点からも『サークル活動』は重要な役割があります。ご家族様の面会が制限されて寂しい思いをされているご利用者様が多い中、施設内で充実した生活を送って頂くためにも欠かせない活動として、今後も継続して実施していきたいです。



5月開催の花バイキングの様子。自分で好きな花を選んで、好きなように生けました。どう？上手に出来たでしょうか？

老人デイサービス
事業

きらめき

いつもと違った、 楽しい時間を

4月末、お天気が良かったので予定を変更して急遽大根島をドライブしました。車から眺める満開の牡丹や芍薬、菜の花に皆さん「きれいな〜」と大歓声。この日は大山も綺麗に見えました。5月には恒例となった日吉親水公園へ、鯉のぼりをみに外出。公園は沢山の人で賑わい、

青空のもと雄大に泳ぐ鯉を指して「頑張れ、頑張れ」と優しく声を掛けるご利用者様もおられました。その表情は普段見るディールームで



青空のもとおしゃべりも弾みます！



「頑張れ、頑張れ」



鯉のぼり

の笑顔とは違い、晴れやかさがありません。コロナによって私たちの生活が一変して3年目の春。自粛も大切ですが、最大限の配慮と工夫をしながら、少しずつできる

ことを見つけていかなければいけません。きらめきでは少人数だからこそできる、寄り添った支援を強みに、職員同士で知恵を出し合いながら、皆さんを笑顔にできる活動を、これからも目指していきたいと思えます。

老人・障がい者
ホームヘルプサービス
事業

ねぎらい

訪問先での ひとこま

週1回の掃除と週2回の入浴介助にて訪問させて頂いている男性Kさん。若い頃は奥様の仕事の都合もあり家事の全てを行っていたそうです。糖尿病や足の痛みから段々と動くのが億劫になられ、現在は受診以外の外出はされず、日中は家でTVを観て過ごしています。

入浴介助の日、何うと…いつものようにすっぽりと布団の中です。「Kさん、こんにちは！今日はお風呂の日ですよ。よろしくお願いますね。」と元気よく声をかけますが、びくともされず布団の中から「ここにはおらんよ。」と一言。バイタル測定やお湯が溜まるまでの間も声をかけ続けますが目を閉じたまま全く起きようとはされません。ですがチラチラと目を開けて、入浴準備しているのを見ておられま

す。振り返るとまたパチッと目を閉じてしまわれ「風呂には入らんで」「ヤダって言つとるが」という言葉が続きます。お湯が溜まっても暫くは入浴を渋られますが、動くのが大儀ながらも最終的には「あゝあ」と言いながら起きて入浴されています。一見、ヘルパーに対してそっけない感じがありますが、わざと浴室の前を通り過ぎてみたり、脱衣場の扉の後ろに隠れてみたり…といったずら好きなKさんです。

入浴後は訪問時とは打って変わって饒舌に話し始められます。やはり入浴してスッキリされたのでしょう。軟膏塗布しながらお話しをして、帰る頃には「もう帰るかね？もうちょっとおるだわね」という言葉まで…。そして「また来ますけんね」「はいはいもう来んでいいよ」というやりとりをして自宅を後にします。4年間の訪問を通してこれも冗談のひとつだと分かるようになりました。外出機会が少なくあまり他者との関わりのないKさんにとってヘルパーの訪問が楽しいひと時になっていけばいいなと思えます。



入浴剤も入れて
気持ち良い入浴を

訪問看護 ステーション 暖心

「暖かい心の暖心さんだね」と
笑顔で迎えて下さるMさん。

訪問の時間は楽しいお話しで
笑いが絶えません。

長年培った人を楽しませ
るトーク力は私たち訪問さ
せて頂くものを元氣いつぱ
いにしてくれます。そんな
素敵なMさんからの暖かい
メッセージをご紹介します。
ます。

(ご利用者M様からの メッセージ)

あなたの心は、あなたの
体のどこにありますか？と
問われると私は決まった処
にはありませんが、必要と
思う場合にはその部処に自
然に生まれます。としか答
えられません。



傷の手当をしている時の看護師
さんの指先には、治療という大役
を果たすため、その方の心が登場
して来ることが伺えるのです。そ
してその心が治療を受けている患
者に暖かく伝わってくるのです。
治療薬も、その相乗効果で治り
も早くなる様です。
心の存在に感謝致します。

居宅介護 支援事業所 ナイス

施設と在宅

高齢者施設は、運営主体や目
的、入居条件により、現在は大き
く分けると11種類に分類する
ことができます。そしてその種
類によっては、施設サービスだ
けではなく在宅サービスの利用
が可能な施設もあり、近年ナ
イスのご利用者様も施設ご入居の
方の割合が増えてきています。

住み慣れたご自宅から施設に
移り住むという大きな決断に至
るには各々の事情がおりです
が、施設を選ぶ際の選択肢の一
つに、ご自宅で利用しているデ
ィやヘルパーなどの在宅サービ
ス事業所が引き続き利用できる
かどうかを挙げられる方もい
らっしゃいます。期待と不安の
入り混じる新生活において、慣
れ親しんだ事業所との繋がりは

安心感をもたらし、新生活に関
する相談も可能なため、結果と
して施設への満足度上昇に繋
がった方もおられます。

施設のイメージや役割は昔と
随分変わりましたが、施設も在
宅サービスも地域に住むお一人
お一人の自立生活を支えられる
サービスの提供が目的です。人
生100年時代、大きな決断は
一回とは限りません。ご利用者
様やご家族様がこれから先も望
まれる日々を暮らせるよう、ケ
アマネージャーとしての役割を
果たしていけたらと思います。



SDGs。大きな世界的な目標も、 小さな取り組みや、一人ひとりの意識で 叶えられる!!



ミッション1.
ひまわり畑を作ろう!!みんなで力を
合わせてね!!



ミッション2. ひまわりの種をまこう!!



ミッション3.
魔法の水を作ろう!!

4月。しまね自然と環境財団の方に来園頂き、「エコバック活用」「フードロス」「水・電気等の資源削減」等について、紙芝居を使って子どもにもわかりやすくお話しして頂きました。エコバックは実際に作りました。その日以来、給食では、「もったいないしてないよ」と、残食0を意識する姿がみられるようになりました。また、給食の皿をブ

ロッコリーやパンなどで拭きとってから返すようにし、洗い物の水の削減にも努めています。

5月。ひまわりいっぱい★すまいるプロジェクトを立ち上げました。しらゆり保育園は、この大庭の地で7年目を迎えました。昨年の秋に、八雲に向かう大庭バイパスが開通し、園庭の向こう側に行き来する車があることが、「新しい風景」となりました。同時に、車中の人も、保育園で遊ぶ子どもたちの姿を「新しい風景」ととらえ、ここを通る時は、自然と眼が向き、ほっとする安らぎのひと時ではないかと感じました。そこで、園庭南フェンス沿いに、子どもと一緒にひまわりの種をまこう!!子ども、保護者、職員はもちろん、地域のみなさんと一緒に、その生長を見守り楽しみたい!!暑い夏、大輪のひまわりの花の下で、元氣いっぱい笑顔いっぱい心地よく過ごそう!!

という達成目標を持ち

ました。

まず初めに、3・4・5歳児の子どもたちで、フェンス沿い21mに土を運び、雨で土が流れないように、石で囲みを作り花壇を作り、500粒のひまわりの種を植えました。発芽を楽しみに日々のぞき込み、「57個芽が出た」「今日は218個!」と観察し、発見の喜びを表現しています。どうして芽が出たのか、背が伸びるのか、葉っぱが増えるのか」と疑問を持ち調べたり、話し合ったりしました。水や太陽エネルギーの恵みに気づき、頑張つて水やりをしています。

また次に、畑でとれた玉ねぎの皮や、給食で出たバナナの皮を有効活用し、子どもたちとエコ有機肥料を作りました。「葉っぱが元気になるね」「ひまわりさん、喜んでいよ」と、自分たちで作った「魔法の水」に自信満々。「畑の野菜にもあげたいよかも。」「なくなったら、また作ればいいよ。」と主体的に取り組んでいます。

SDGs。保育士一人一人が心に留めて、子ども・保護者・地域のみなさんと繋がり、この大庭の地に、温かく自然に優しい「笑顔の花」を咲かせたいと思います。

保育の中の心を揺さぶる経験を通して ～芝生を増やそうプロジェクト～

しらゆり 第2保育園

昨年、子どもたちが少しでも自然を感じながら遊べるように、保護者の方にご協力いただき、園庭の一面に芝生スペースができました。また、シロツメクサなど子どもたちが自由に摘んで遊べるミニ自然ビオトープも園庭の一面に作り、目にも涼しくなりました。芝生の上を這ったり、寝転んだり、水遊びや虫探しをしたり、それぞれの年齢でいろいろな活動を楽しんでいます。

そんな環境に慣れた今年、年長児に「芝生ってどう？」と聞くと、「寝転ぶと気持ちがいい」「転んでも痛くない」「虫がたくさんくる」など発見がありました。また話しをしていく中で、暑くならないなど良いことがたくさんあることが分かり、「芝生がもつと広がると保育園が涼しくなるんじゃない！」「エコだね！」という話になりました。そこでエコ活動として年長児で

「芝生の種ってどんな（形）かな？」と想像しながら袋から出してみると、細長く、薄茶色の枯れた芝のような種でした。「思ってたのと違った！」「こんなのだと思っちゃったあー！」と言いながら、そっと種を摘み、土の表面全体に振りかけるように蒔きました。

①牛乳パックでプランターづくり
牛乳のパックの底に20〜30個の穴を数えながら目打ちであけました。

《マイ芝苗づくり》



「おそとはきもちいいなあ〜」



みんなも芝生も水をあびてうれしそう！

②土を入れて、種まき
「芝生の種ってどんな（形）かな？」と想像しながら袋から出してみると、細長く、薄茶色の枯れた芝のような種でした。「思ってたのと違った！」「こんなのだと思っちゃったあー！」と言いながら、そっと種を摘み、土の表面全体に振りかけるように蒔きました。

③水やり
種が飛ばないようによう、慎重にそーつとたつぷり水をあげました。日当たりが良く、風通しの良い場所に置いて育てることが条件の一つ。「園庭のどこがいいかな？」とみんなで園庭を歩いてみながら考え、育つ様子もいつでも見れる場所に決め、マイ芝苗のお世話が始められました。

一日、二日経ち、「まだ何も出ないねえー」と言いながら水やりをしていた七日目。「芽が出てる〜！」「ツノが生えてきたみたい！」と子どもたちの大きな声が園庭に響きました。「みてみて〜」。芽が出た感動をみんなと共有したくてたまらない子どもたちは、マイ芝苗パックを持っていろいろな人に見せて回っていました。芝の芽が出たちようどその日、年長組で育てているあおむしが羽化しました。子どもたちにとってスペシャルな一日となり、保護者からの連絡ノートに「蝶の羽化を見たり芝生の芽が出たり、毎日子どもたちは刺激いっぱいですね」とあり、子どもたちが帰って話した様子が伺えました。また水やりの場面では、自分の隣の芝苗パックは水やりがしていないことに気づき「〇〇くんお休みだけん、お水あげておくね」と水やりをする姿もあり、芝生とともに心も育っていることを感じました。

日々の保育で子どもたちが興味を持ってかかわり、心が揺さぶられる経験の中にSDGsに結びつくことが沢山あると思います。私たち保育者は子どもたちのことばや反応を大切にしながら、子どもたちが主体的にかかわっていきける環境づくりにしていきたいと思えます。



「しばなえ すくすくそだっているよ」



「しばふのたね、かわったかたちしてるね」

しらゆり 第3保育園

「地域に支えられた体験活動」



「しらゆり第3保育園は地域に根差した保育園である」というのが五年前に異動してきたときの第一印象でした。コロナ禍前は、寿会さんとの柏餅づくりに始まり、矢田の合同夏祭り、交防協の交通安全指導、散歩先では南消防署の消防士さんとの触れ合い、地域の方たちとの餅つき；等地域との関わりが深く、多くありました。ですが、ここ二年間は新型コロナウイルス



感染症予防対策の為、これらの地域交流がほぼなくなり、保育園内の単独行事になりつつあります。そんな中、今年度は地域の方との触れ合いから、子どもたちにとって新たな体験をすることができました。

今年度も地域の方のご厚意で、昨年度とは違う場所ですが、広い芋畑を貸していただくことになりました。五月には地域の方のお手伝いのもと、四、五歳児でさつま芋苗植を行いました。秋の収穫を楽しみに散歩がてら水遣りに出かけています。

畑のすぐそばにある竹林では筍掘りと皮むき体験をさせていただきました。生えている筍を見る事が初めてな子どもたちも多く、掘り起こすことに奮闘をしていました。目をキラキラさせて、掘り起こそうとする子、手伝ってもらって掘り起こした筍を「見て！見て！」と嬉しそうに抱える子どもたちでした。筍の皮むきでは、初めて触れる感覚に少しの緊張



感とわくわく感が子どもたちの表情からうかがえました。

また、地域の牛舎へも見学に出かけました。牛を間近で見たり、草を食べさせたりと、普段見ることがない大きさに、子どもたちには驚きの連続でした。

体験活動の後には、保育園で描画活動を行います。体験活動で得た、子どもたちの言葉では表しきれない思いや感動を絵に描いて表現します。筍掘りや牛舎見学の後も、絵を描きました。意欲的に描く子どもたちの姿から、生きた体験が子どもたちの心を動かすことがよく伝わってきました。筍の皮のうぶ毛の質感を思い出しながら丁寧に描く姿、普段描画活動に取り組みにくい子が、牛の絵をいきいきと描き始めた姿。これらは、すべて子どもたちの成長の一つであり、体験活動あつてこそだと思えます。子どもたちの成長を促す上で、地域の環境に触れ、体験できることをこれからも増やしていきたいと考えています。

そんな貴重な体験活動の裏側には、時間調整の他、草刈りをして整地するなど、安全面に配慮した環境作りといった事前準備をしてくださる地域の方のお力添えがあつてのこと、感謝の気持ちで一杯です。

このように、子どもたちの育ちを支えてくださる地域の方々に対して、コロナ禍でも保育園ができることは何かを考え、これからは、ウィズコロナでもできる地域の方々と交流を深めていきたいと考えています。

SDGs。保育の現場で子ども達と共に ～野菜くずから堆肥・コンポストづくり～

しらゆり 千鳥保育園

しらゆり千鳥保育園では、昨年度から未来を生きる子どもたちと共にSDGsについて考え、その一部でも、実践していきたいと取り組んでいます。

SDGsとは、「地球環境や世界中の人々の暮らしをより良いものにするために、世界の国々が継続して取り組む17の目標」です。

保育者は子ども達に、SDGsという取り組みを世界中で頑張っていることや世界中にある問題、それに対してみんなが出来ることを伝えながら、楽しく学べるようにしています。身近な絵本を使って学ぶことで、園の生活の中で出来るSDGsを子ども達と考えています。

- ①子ども達が楽しんで取り組めること
- ②子ども達が興味を持って取り組むこと
- ③主体的に取り組めることを考えています。

SDGsの2つめの目標として『飢餓をゼロに』という目標があります。

子どもにとって楽しみの一つである、ご飯を食べること。『もしもそのご飯を食べることが出来なくなったら』と考えると、とても辛いです。

しかし、世界には、ご飯を満足に食べられない人々もいます。

「ご飯を食べられないと、お腹がすいて悲しいよね。世界にはいろんな理由で、ご飯が満足に食べられない人がいるんだよ。ご飯を食べられることに感謝しよう！」

「ご飯を残して捨ててしまうのは、もったいないね。出来るだけ残さないでご飯を食べようね！」

こんな話をするだけでも、食事に対する子どもの意識が少し変わってきます。

今年度は畑での野菜栽培に合わせて、給食の食材の野菜の皮を利用したコンポスト（肥料）づくりをはじめました。食育を通したフードロス削減、植物の栽培などでの食の大切さを学ぶ良い機会となると思っています。バケツに腐葉土をいれたものを用意します。その中に子ども達が、給食室から野菜の皮等を受け取り細かくして入れ、スコップで混ぜます。これを繰り返し、発酵させます。そうすると栄養たっぷりの堆肥が完成します。今年度は、園庭の畑やプランターにこの手作りの堆肥をまき、野菜を育てたいと思っています。身近にできるSDGsとして、生ゴミを減らすことも意識していけたらと思います。



畑の栄養を作ろう！このバケツで・・・



給食の先生から野菜や果物の皮、たくさんもらいます。



1つのバケツに300gを入れる。スケールで測って…まだ足りない？



細かくちぎって入れるよ！

野菜を入れ、かき混ぜ発酵させると臭いができます。その匂い消しのために、コーヒーの粉を乾かしたものを用意しました。職員が協力して、乾かしたものを家から持ち寄ります。これも捨ててしまうと、ゴミとなるものです。ゴミの削減になります。

保育園では、子どもたちが絵本からの知識や園生活での実践から、SDGsを身近なことに感じて欲しいと願っています。そのことが、SDGsを『自分たちのこと』として考えるきっかけになればと思います。自分たちの手で、よりよい未来をつかんでね。

社会福祉法人第2条 第2項	第1号	生活保護法に規定する 救護施設	救護施設 泉の園 松江市矢田町 534-4 TEL.0852-24-3512 / FAX.0852-27-6987
	第3号	老人福祉法に規定する 特老、軽費老人ホーム	特別養護老人ホーム 詔光の里 松江市山代町 934-5 TEL.0852-31-4165 / FAX.0852-27-6982
			軽費老人ホームケアハウス 夢楽の郷 松江市山代町 933-9 TEL.0852-31-9036 / FAX.0852-31-9038
第4号	障害者総合支援法に 規定する障害者支援 施設	障がい者支援施設 希望の園 松江市山代町 934-10 TEL.0852-21-0791 / FAX.0852-21-2829	
		障がい者支援施設 光洋の里 境港市渡町 2480 TEL.0859-45-5400 / FAX.0859-45-5411	

社会福祉法第2条 第3項	第2号	児童福祉法に規定する 保育所	児童福祉施設 しらゆり保育園 松江市大庭町 135-1 TEL.0852-22-3803 / FAX.0852-60-7132
			児童福祉施設 しらゆり第2保育園 松江市西持田町 336-5 TEL.0852-23-3340 / FAX.0852-60-7131
			児童福祉施設 しらゆり第3保育園 松江市矢田町 484-6 TEL.0852-26-2356 / FAX.0852-60-7130
			児童福祉施設 しらゆり千鳥保育園 松江市北田町 188-3 TEL.0852-21-3440 / FAX.0852-60-7135
	第4号	老人福祉法に規定する 事業	老人・障がい者ホームヘルプサービス事業 ねぎらい 松江市山代町 934-5 TEL.0852-31-3328 / FAX.0852-27-6982
			老人デイサービス事業 きらめき 松江市山代町 934-5 TEL.0852-31-3370 / FAX.0852-27-6982
	第4の2号	障害者総合支援法に 規定する障害福祉 サービス事業	就労継続支援A型事業 ワークセンター島根 松江市矢田町 250-110 TEL.0852-22-4105 / FAX.0852-31-1167
			生活介護事業 さざなみ 境港市渡町 2480 TEL.0859-45-5407 / FAX.0859-45-1107
			共同生活援助事業 互助の館 松江市東津田町 1324-1 TEL.0852-67-3500 / FAX.0852-67-3500
			相談支援事業所 ねくすと 松江市山代町 934-10 TEL.0852-21-5080 / FAX.0852-21-2829

社会福祉法 第26条 第1項	施行令 第4条	介護保険法に規定する 居宅介護支援事業他	居宅介護支援事業所 ナイス 松江市山代町 934-5 TEL.0852-31-3288 / FAX.0852-27-6982
			訪問看護ステーション 暖心 松江市山代町 934-5 TEL.0852-28-0906 / FAX.0852-27-6982



表紙写真
**夢楽の郷は平成4年
6月に開園し、今年で30周年を迎えました。
ご入居の皆さまと職員で記念撮影を行いました。**



編集後記

新型コロナウイルス感染症はいつ収束するのでしょうか。外食や面会を条件付きや中止にしてから、もう2年半が過ぎます。マスクを取った顔が気恥ずかしかったり、先日は知り合いと思いを掛けたらマスクをされてなくて「すみません間違えました」と謝ったら、間違ってたかったり…コロナ禍の生活様式にどっぷりと浸かって以前の生活が思い出せません。気持ちが沈みがちな中、しらゆり会の各事業所の多彩な活動報告を拝見しその工夫と思いやりの心に、感心するとともに元気が出ました。どんな状況にあっても想像力と工夫で乗り切っていく姿勢が大切だと明るく前向きになります。最後に、発刊に際しまして、お忙しい中ご寄稿いただきました皆様方には心からお礼申し上げます。

広報誌 **地域とともに歩むしらゆり会**

しらゆり

shirayuri
第38号
2022.8 August

しらゆり会では、日頃の活動報告や活動予定をホームページにて紹介しています。
右のQRコードからアクセスしてください。
<http://www.sirayurikai.or.jp/>



【第38号】令和4年8月発行
発行人/理事長 国頭正治
発行/社会福祉法人しらゆり会
印刷・製本/株式会社谷口印刷



就職活動中の皆様へ
新型コロナウイルス感染拡大の影響で就職活動が困難な方々に向けて、オンライン上でガイダンス、面接を行える環境を整えました。ぜひご活用ください。